

## 世界図書館巡礼

## 一東西文化交渉の書籍を求めて イタリア編(1)—カサナテンセ図書館

内田慶市

## 1. 邂逅

漢訳聖書翻訳史上に燦然と輝くロバート・モリソン (Robert Morrison、1782-1834) の漢訳聖書は、新約の『新遺詔書』(1813) と、ミルン (William Milne、1785-1822) の協力を得た旧約の『旧遺詔書』(1823) を合わせて『神天聖書』(1823) 21 本としてマラッカから刊行されたが、このうち新約については、パリ外国伝道会の宣教師ジャン・バセ (Jean Basset、中国名：白日昇、1662-1707) の『四史攸編』(『四史攸編耶穌基利士督福音之会編』) を元にしたことはつとに明らかにされてきた。この『四史攸編』は大英図書館に所蔵されているが、モリソン自身が筆写 (転写) したもう一本の『四史攸編』も香港大学図書館に所蔵されている。

ところが、4 年前のこと、『四史攸編』とは別のバセ訳新約稿本がローマのとある教会図書館に所蔵されていることが明らかになった。その図書館とはカサナテンセ図書館 (Biblioteca Casanatense = Casanatense Library) である。

2009 年 4 月の初め、筆者は北京外国語大学中国海外漢学センターの張西平氏から送られた写真 (CD) をひろげて見て久しぶりに胸の昂りを覚えた。それは、かつて、ロバート・トーム (Robert Thom) の『意拾喩言』(イソップ物語の漢訳本) の稿本『意拾秘伝』やおそらく中国人の手になる最初の中国語文法書である畢華珍の『衍緒草堂筆記』、あるいはトーマス・ウェード (Thomas Francis Wade) の『語言自邇集』の試用本の一つである應龍田の『登瀛篇』といった、筆者がずっと探し求めていたものと巡り会った時のあの感覚であり、この稿本は漢訳聖書研究史上、超一級の発見と言っても過言でないはずのものであるからであった。

その手稿本の扉にはまずラテン語で以下のように本手稿本の内容について記されている。

Novum  
Testamentum

Ms

Sinice

Redditum

A domino Johanne Basset

(新約聖書、稿本、中国語、訳者、Johanne Basset = Jean Basset)

Vid. Inventarium

§ A. 33

pag. 93

(目録の § A.33、93 頁参照)

Desiderantur ferme totu

Epistola ab Hebreos

Epistolae Canonicae Petri Jacobi

Et Johannis

Apocalypsis

(われわれは更に以下の全てを求める。ヘブル書、ヤコブ書、ペテロ書、ヨハネ書、黙示録)

この後に、「B.C.」の印があり、さらに、その下にイタリア語で次のように本手稿本が本図書館に所蔵された由来が続いている。

Era in sette libbreor staccato l'uno dall'

-altro, fralle scritture donate gia' dal

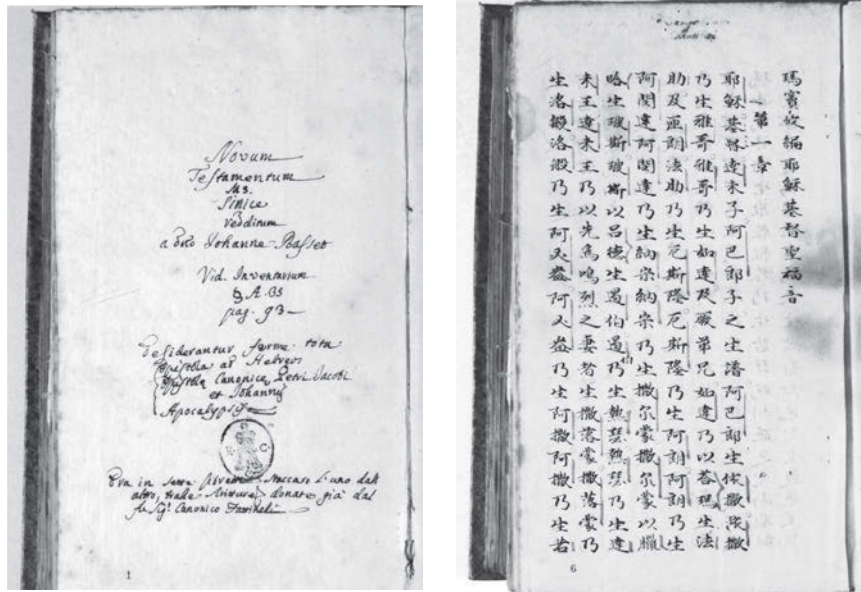
-fu Sig. Canonico Fattinelli.

(元 7 巻本で、Fattinelli 神父によって我々に寄贈されたもの)

この「B.C.」の印とは、「B = Biblioteca」、「C = Casanatense」を意味しており、すなわちカサナテンセ図書館なのである。

また、最終頁には

Biblioteca Casanatense Roma Regia Mss. 2024



『四史攸編』手稿本

とあり、マニユスクリプトの請求番号となる。

## 2. カサナテンセ図書館

上記の手稿本がローマのカサナテンセ図書館にあることが分かってから、5ヶ月後の2009年9月、ローマ大学の友人のフェデリコ・マシーニ教授（現在ローマ大学副学長）の案内でついにそこを訪れることができ、現物を見ることができた。

その場所は、ナヴォーナ広場やパンテオンから歩

いて10分ぐらい、スペイン広場からならコルソ通りをコレジオ・ロマーノ（ローマ学院）の方に15分ぐらいの所にある。聖イグナチオ通りの狭い路地を少し北に行くと、右手にサンティニャツィオ教会、左手に図書館がある。なお、サンティニャツィオ教会と図書館側との間にはアーチ型通路がある。

さて、このカサナテンセ図書館は元来ドミニコ会のサンタ・マリア・ソプラ・ミネルバ教会（Santa Maria Sopra Minerva）附設の図書館として開設されたが、その後、ジェロラモ・カサナテ枢機卿



アーチ型通路



カサナテンセ図書館入口



シ・ロラモ・カサナテ枢機卿



メモリアル閲覧室



メモリアル閲覧室



カサナテンセ図書館内部

(Cardinal Gerolamo Casanate, 1620-1700) の意志によって1701年11月3日に公開されたものであり、そこから「カサナテンセ」図書館と命名されている。

本図書館の蔵書は上述のカサナテ枢機卿のコレクション(25,000冊)が元になっているが、その後、多くの寄贈を受けて、現在ではマニュスクリプト6,000冊を含み、約400,000冊の蔵書数を誇っておりバチカン図書館、ローマ国立中央図書館に次ぐものである。なお、日本ではキリシタン版の『さるばとる・むんち』(1598年長崎刊)や『どちな・きりしたん』(1600年長崎刊)を所蔵することで、キリシタン関係者や国語学者の間では夙に知られている。

蔵書目録については、徐々にオンライン化が進められているが、現在も作業は続行中であり、原則は昔ながらのカード検索となる。ほとんどが貴重書であるにも関わらず、当日行ってしばらく待てば、大

抵は閲覧室で閲覧が可能であるのは、他の欧米の図書館と同様である。

館内にはメモリアル閲覧室もあるが、入ればその荘厳さにまさに息をのむはずである。

開館時間は、次の通りである。

月一金…8:30-19:00

土……………8:30-13:30

ただし、8月と12月は8:30-13:30、また、8月の第2週と第3週は休館となっている。

### 3. ローマ市内のその他の図書館

詳しくはまた次回以降に述べることとするが、ローマ市内の図書館には他に以下のようなものがある。

- (1) 国立中央図書館 (National Library of Rome/ Biblioteca nazionale central Roma)
- (2) 国立公文書館 (State Archive Rome/ Archivio di Stato di Roma)
- (3) バチカン図書館 (Apostolic Vatican Library/ Biblioteca Apostolica Vaticana)

- |   |   |
|---|---|
| (4) バチカン公文書館(Vatican Secret Archive/ Archivio Segreto Vaticano) | Angelica)   |
| (5) イエズス会文書館 (Archivium Romanum Societatis Iesu)                | (8) The Library of the Pontifical Urbaniana University      |
| (6) Pontifical Gregorian University Library                     | (9) ローマ大学図書館(Allesandrina Library/ Biblioteca Alessandrina) |
| (7) アンジェリカ図書館 (Angelica Library/ Biblioteca                     | (うちだ けいいち 外国語学部教授)  |